
Deus Ex Machina

悠樹紫遠

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

D e u s E x M a c h i n a

【Nコード】

N 7 6 1 9 S

【作者名】

悠樹紫遠

【あらすじ】

見えざる神と報いの神の輪舞曲
時計の針が零時を指す刻
もう一つの世界が目を醒ます

紅に目覚め剣を取る少年
臨むのは神の人形達による殺戮のゲーム
旅路の先に待つのは

世界を安息の闇に導く救済の神か
世界を滅亡の光に導く終焉の神か

汝 宵の刻 目覚め給え

Chapter 1「午前零時の選択」

午前零時に目覚める世界

＞現実くに厭きた異端の少年は

導かれるままに

新たな＞現実くの扉へと手を伸ばす――

――この世界はとても退屈で窮屈だ――

流れる人波

顔の見えない人々

見ようとすれば見える

だが

見ようとしなければ見えない。

――繰り返す毎日――

――変わらない風景――

＞平和く

平和なこと自体は嫌いじゃない。

日々平穏に過ごせるのは幸せなことだ。

けれど

完全なる平穏も

完全なる幸福も

この世には存在しない。

「常に学年トップ、家は大金持ちだってさ」

「でも、ウワサじゃ親と血が繋がってないって」

「あの髪の色、普通じゃないもんなあ」

「>人間<じゃなかったりして？」

「あっは、なら成績優秀なのも当たり前かもねえ？」

平和なら、平和なほど

人は些細な>異常<に目を留める。

「・・・」

陽光に煌く白銀の髪

薄い緑の瞳を伏せて

席について頬杖をついた少年は

小さくため息を吐く。

―この世界は、実にくだらない―

>平穏<には

常に何かしらの代償が必要なのだ

多感期の残酷な子供ならばなおのこと。

興味の対象は次から次へ移ってゆく

平穏の中に居る人間のほとんどは

平和すぎる現実に>スリル<を求める。

(僕であって、僕じゃない)

彼らが>妬むもの<

彼らが>羨望するもの<

それは

「ミストⅡベネデット、他校でも有名らしいじゃん？」

「ベネデットってアレでしょ？上流貴族の・・・」

「まったく貴族サマなら学校来なくていいじゃん
カテキョでも雇えばいいのにさぁ・・・」

「そーそー、無駄に平均点上げないでほしーよねー」

「あー、でも他校の女子には人気らしいじゃん？」

「つか、隠れファン多いらしーよ。」

まあ、あの顔で文武両道だもんねえ」

＞ミストⅡベネデット＜という＞肩書きく。

中身など関係ない

他人に見えるのは＞外殻＜だけだ。

「でもさぁ、あのウワサほんとだったらヤバイよね」

潜めた声

だがわざと、聞えるように言っている。

少年は僅かに瞳を開く。

「あいつ・・・もう＞何年も外見変わってないくって」

＞普通ではないく、＞異常な話題＜に

周囲に嬉々としたざわめきが走る。

新たな＞スリル＜を手に入れたときの空気だ。

だがそれを打ち砕くように

教師が教室へと入ってくる

すると

蜘蛛の子散すように野次馬は散っていく

大人に気づかれないように行う＞暗い楽しみ＜

それは、平和な世界に生きる子供の糧だった。

―この世界は、とても窮屈だ―

奇異の視線を向けられても
それを気に留めることなく

銀の少年は学校という>監獄<を出る。

だが、外もまた>自由<とは程遠い。

>ベネデット<という肩書き

貴族という肩書きは

常に人々の監視下に置かれているのと変わらない。

「あれでしょう？最近越して来たっていう

ベネデット家のご子息って」

ぼそぼそと聞えてくる声。

>顔無し<の声。

「なんでも地方を転々としているとか」

「人に知られたら不味いことでも

あるのかしらねえ？」

「それになあに？あの髪の色

・・・染めているのかしら？」

―この世界は、実にくだらない―

無意識に足早になる。

この場所から離れたくて

声の届かない場所へ行きたくて。

気が付けば

広大な別荘の門まで来ていた。

「おかえりなさいませ、ミスト様

奥様と旦那様も先ほどお戻りに―」

門番が門を開けると

少年は無言でその門を通った。

―知りたくも無い現実は、いつも傍に居る―

「もう限界よ！！」

屋敷の扉に手を掛けたとき
中から怒鳴り声が聞えた。

「あの子おかしいわ!!」

もう14になるのに、

孤児院から拾ったときと何も変わらない!!」

少年は無表情に、ドアノブから手を離す。

「あの子、人間じゃない!!!」>化け物くよ!!!」

少年の後ろで

門番や使用人が不安げに

だが遠巻きにその背を眺めている。

「・・・」

再びドアノブに手を伸ばし

ゆっくりと押す

「ただいま戻りました」

振り返った>母親くは

>子供くの姿に息を詰まらせた。

「―ミスト、聞いていたのか・・・?」

そして父親を一瞥して

少年は部屋への階段を上る。

「ミスト!!」

名前を呼ぶ声を遮るように

厚い木製の扉を閉めて

鍵を閉める

>世界くを遮断するために。

―この世界は窮屈だ―

―この世界に僕の居場所など無いのだから―

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7619s/>

Deus Ex Machina

2011年10月7日10時33分発行